

## 第2編 設備別編

### 第1章 水門設備

#### 第1節 直接測定による出来形管理

1. 河川・水路用水門設備
2. ダム用水門設備
3. その他設備

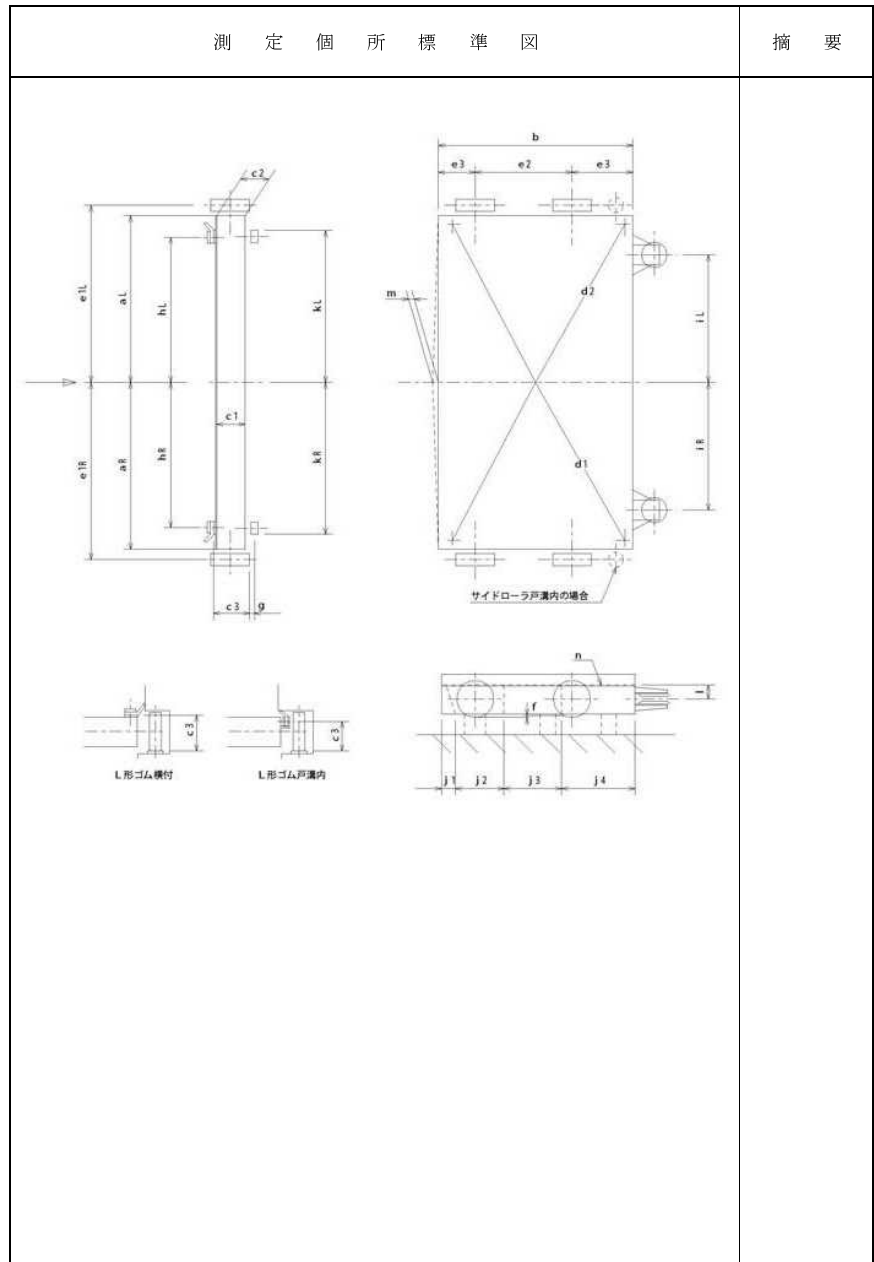
#### 第2節 品質管理

第1節 直接測定による出来形管理

1. 河川・水路用水門設備

(1) 三方水密ローラゲート

工種	分類	項目	管理基準値 (mm)	測定基準
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (1) 三方水密ローラゲート (製作)	1. 扉体	原則として水密ゴム取付面を上にして水平位置に仮組み計測する。下側に計測に必要な空間を確保する。		
	A	扉体の全幅 (a <sub>L</sub> , a <sub>R</sub> )	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	扉体の全高 (b)	± 10	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	主桁の高さ (c <sub>1</sub> )	H<0.5 ±2 0.5≦H<1.0 ±3	桁1本につき2箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	端桁の高さ (c <sub>2</sub> )	1.0≦H ±4	左右各2箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	水密ゴム受座面から主ローラ踏面までの距離 (c <sub>3</sub> )	± 5	(L形ゴム横付タイプ) 左右各2箇所をレベルと金属製直尺等で測定する。
			+5, -3	(L形ゴム戸溝内タイプ) 左上上・中・下3箇所をレベルと金属製直尺等で測定する。
	A	基準点对角長の差 (d)	10	鋼製巻尺で測定する。 (d =  d <sub>1</sub> - d <sub>2</sub>  )
	A	主ローラの支間 (e <sub>L</sub> , e <sub>R</sub> )	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	主ローラ中心間距離 (e <sub>2</sub> )	± 5	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	主ローラから扉体下端までの距離 (e <sub>3</sub> )	± 5	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	主ローラ踏面の偏差 (f)	1	左右各1箇所をレベル、金属製直尺等で測定する。
	B	主ローラ踏面からサイドローラまでの距離 (g)	± 5	上下左右各1箇所をレベル、金属製直尺等で測定する。
	B	水密幅 (h <sub>L</sub> , h <sub>R</sub> )	+5, -3	(L形ゴム横付タイプ) ゴム受座中心間距離を高さ2mごとに鋼製巻尺で測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。)
			± 5	(L形ゴム戸溝内タイプ) ゴム受座中心間距離を高さ2mごとに鋼製巻尺で測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。)
	B	吊金物 (シーブ) 中心間距離 (i <sub>L</sub> , i <sub>R</sub> )	± 5	1箇所を鋼製巻尺で測定する。
A	主桁間隔 (j)	± 5	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
B	サイドローラ踏面間距離 (k <sub>L</sub> , k <sub>R</sub> )	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
B	吊金物 (シーブ) 中心とスキムプレート間の距離 (l)	± 3	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	



工 種	分 類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (1) 三方水密ローラゲート(製作)	1. 扉体	A	± 3	レベル、金属製直尺等で測定する。
		A	扉体の平面度 (n)	dの対角基準点4点とその交点の計5点をレベルで測定する。 小形：扉体面積10㎡未満 中形：扉体面積10㎡以上50㎡未満 大形：扉体面積50㎡以上

測 定 個 所 標 準 図	摘 要

- (注) 1. 小形のローラゲートにおいて形鋼を使用する場合は、主桁、端桁の高さ測定は桁1本につき1箇所でよい。  
2. 形鋼の幅、高さ、板厚の許容差は、その材料の規格による。

工種	分類	項目	管理基準値 (mm)	測定基準		
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (1) 三方水密ローラゲート(製作)	2. 戸当り	原則として主ローラ踏面を上にして水平位置に仮組み計測する。				
		A	純径間 ( $a_L, a_R$ )	+3, -5	(L形ゴム横付タイプ) 上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
				±5	(L形ゴム戸溝内タイプ) 上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
		A	主ローラ踏面板 中心間距離 ( $b_L, b_R$ )	±5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
		B	サイドローラ踏 面間距離 ( $c_L, c_R$ )	±5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
		B	主ローラ踏面と フロントローラ 踏面間距離 (d)	±5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
		B	側部戸当りと底 部戸当りとの関 係位置 (e)	±3	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
		B	戸当り高さ (f)	±10	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
		A	主ローラ踏面板 の厚さ (g)	+5, -0	機械加工を行う場合	上下各1箇所を ノギスで測定す る。
				JISによる	機械加工を行わない場合	
		A	主ローラレール 桁高さ (h)	$H < 0.5$ ±2 $0.5 \leq H < 1.0$ ±3 $1.0 \leq H$ ±4	上下中央各1箇所を金属製直 尺で測定する。	H: 腹板高(m)
		A	基準点間の対角 長の差 (i)	10	鋼製巻尺で測定する。 ( $i =  i_1 - i_2 $ )	
		A	底部戸当り表面 の平面度 (j)	1/m	長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで 測定する。	
		A	底部戸当り表面 の真直度 (k)	3	水平基準線からの変位を金属製直尺で測定する。	
		A	主ローラ踏面板 の真直度 (1)	2 (3)	ピアノ線、レベル、金属製直尺等で2mごとに測 定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定す る。) ( )内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密 の必要がない部分)の許容差を示す。	
		A	主ローラ踏面板 の平面度 (m)	1 (2)/m	長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで 測定する。 ( )内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密 の必要がない部分)の許容差を示す。	
		A	側部水密面の真 直度 (n)	3	ピアノ線、レベル、金属製直尺等で2mごとに測 定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定す る。)	
A	側部水密面の平 面度 (o)	2/m	長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで 測定する。			
B	サイドローラ踏 面の真直度 (p)	6	ピアノ線、レベル、金属製直尺等で2mごとに測 定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定す る。)			

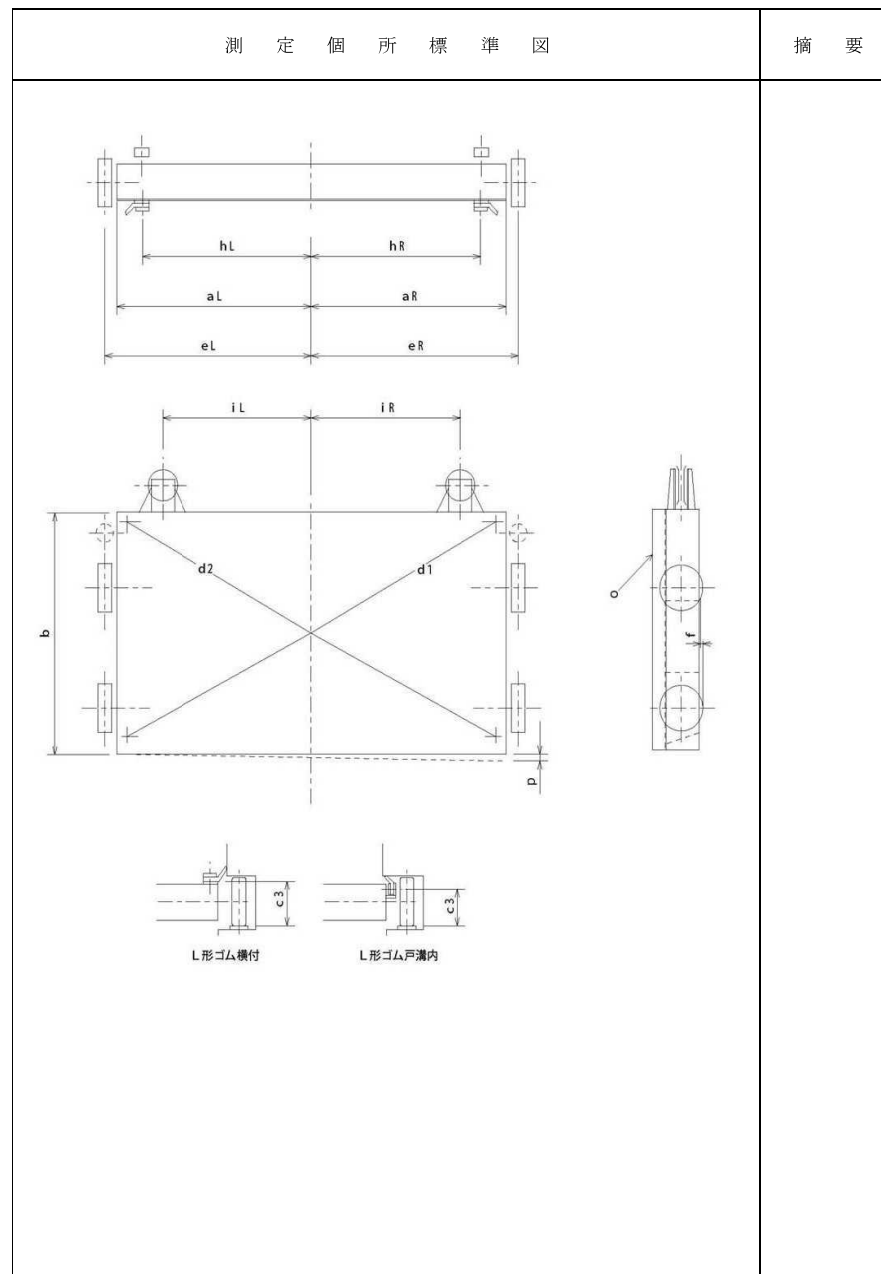
測定箇所標準図	摘要

工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準
水門設備	2. 戸当り	B サイドローラ 踏面の平面度 (q)	2(3)/m	長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで測定する。 ( )内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。
	1. 開閉装置	(7)開閉装置寸法による。		
河川・水路用水門設備 (1)三方水密ローラゲート(製作)				

測 定 個 所 標 準 図	摘 要

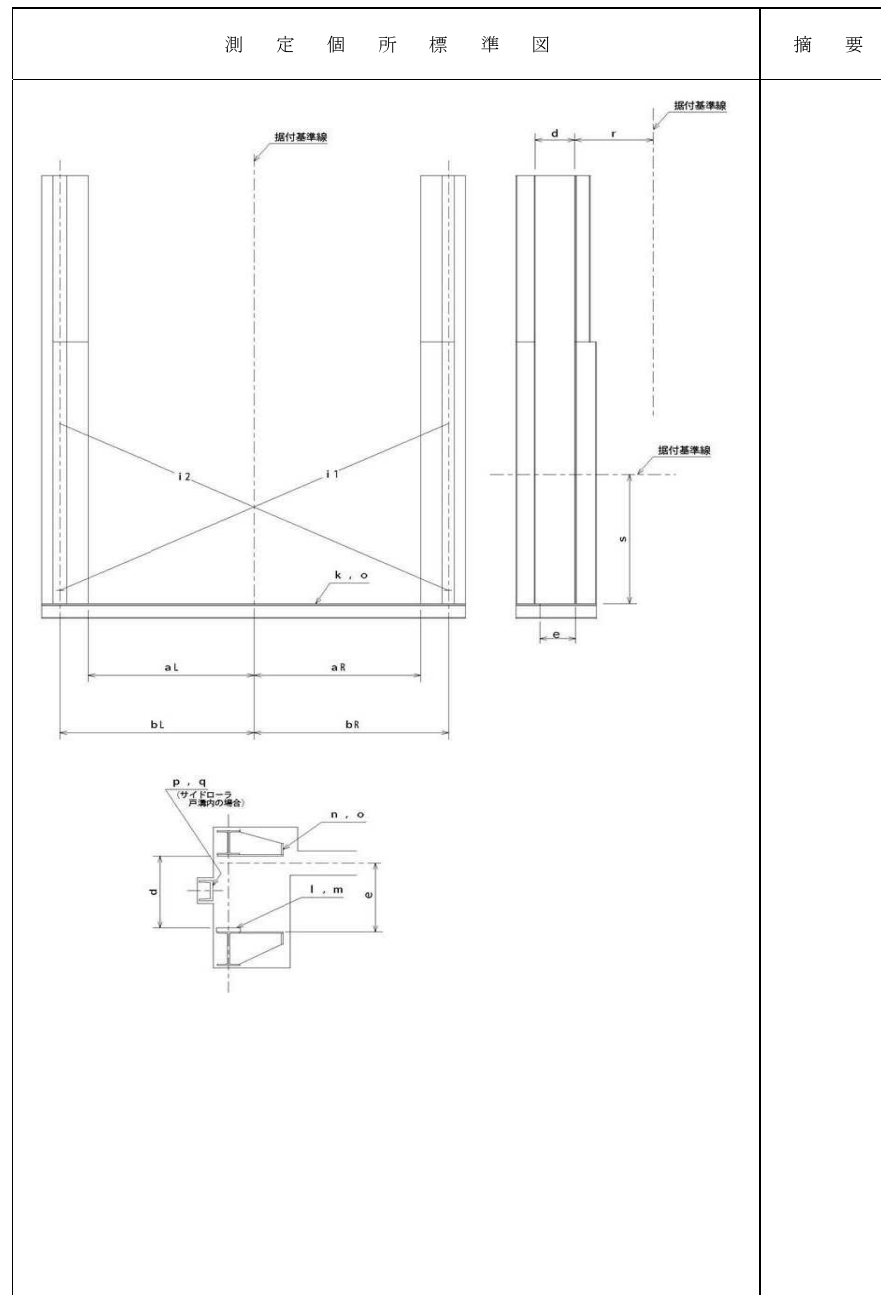
- 注) 1. 小形のローラゲートにおいて形鋼を使用する場合は、主桁、端桁の高さ測定は桁1本につき1箇所でよい。  
2. 形鋼の幅、高さ、板厚の許容差は、その材料の規格による。

工種	分類	項目	管理基準値 (mm)	測定基準	
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (1) 三方水密ローラゲート(据付)	1. 扉体	B	扉体の全幅 ( $a_L, a_R$ )	$\pm 5$ 上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
		B	扉体の全高 ( $b$ )	$\pm 10$ 左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
		A	水密ゴム受座 面から主ローラ 踏面までの 距離 ( $c_3$ )	$\pm 5$	(L形ゴム横付タイプ) 左右各2箇所をレベルと金属製直尺等で測定する。
				$+5, -3$	(L形ゴム戸溝内タイプ) 左右各3箇所(上・中・下)をレベルと金属製直尺 等で測定する。
		A	基準点对角長 の差 ( $d$ )	$10$	鋼製巻尺で測定する。 ( $d =  d_1 - d_2 $ )
		A	主ローラの支 間 ( $e_L, e_R$ )	$\pm 5$	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		A	主ローラ踏面 の偏差 ( $f$ )	$1$	左右各1箇所をレベル、金属製直尺等で測定する。
		B	水密幅 ( $h_L, h_R$ )	$+5, -3$	(L形ゴム横付タイプ) ゴム受座中心間距離を鋼製巻尺で高さ2mごとに 測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定す る。)
				$\pm 5$	(L形ゴム戸溝内タイプ) ゴム受座中心間距離を鋼製巻尺で高さ2mごとに 測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定す る。)
		A	扉体の平面度 ( $o$ )	小形 3 中形 5 大形 7	$d$ の対角基準点4点とその交点の計5点をレベル で測定する。 小形: 扉体面積 $10\text{ m}^2$ 未満 中形: 扉体面積 $10\text{ m}^2$ 以上 $50\text{ m}^2$ 未満 大形: 扉体面積 $50\text{ m}^2$ 以上
		A	扉体の傾き ( $p$ )	$\pm 5$	全閉前の左右岸・中央を直定規で測定する。 (水流直角方向)



注) 工場から現場へ分割なしで搬入され現場接合がない場合は、現場での寸法検査は必要ない(扉体の傾きを除く)。

工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (1) 三方水密ローラゲート(据付)	2. 戸当り	A 純径間 ( $a_L, a_R$ )	+3, -5	(L形ゴム横付タイプ) 上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
			±5	(L形ゴム戸溝内タイプ) 上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		A 主ローラ踏面板中心間距離 ( $b_L, b_R$ )	±5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		B 主ローラ踏面とフロントローラ踏面間距離 ( $d$ )	±5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		B 側部戸当りと底部戸当りとの関係位置 ( $e$ )	±3	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		A 基準点間の対角長の差 ( $i$ )	10	鋼製巻尺で測定する。 ( $i =  i_1 - i_2 $ )
		A 水密面の水平度 ( $k$ )	2	水平基準線からの変位を下げ振り、金属製直尺等で2mごとに測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。)
		A 主ローラ踏面板の鉛直度 (1)	2 (4)	鉛直基準線からの変位を下げ振り、金属製直尺で2mごとに測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。) ( )内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。
		A 主ローラ踏面板の平面度 (m)	1 (2)/m	長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで測定する。 ( )内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。
		A 水密面の鉛直度 ( $n$ )	2	鉛直基準線からの変位を下げ振り、金属製直尺で2mごとに測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。)
		A 水密面の平面度 ( $o$ )	2/m	長さ1mの直定規から変位をすきまゲージで測定する。
		B サイドローラ踏面の鉛直度 ( $p$ )	6	鉛直基準線からの変位を下げ振り、金属製直尺で2mごとに測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。)
		B サイドローラ踏面の平面度 ( $q$ )	2 (3)/m	長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで測定する。 ( )内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。
		B 据付基準線から主ローラ踏面板までの距離 ( $r$ )	±5	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	B 底部戸当りの標高 ( $s$ )	±5	中央部をレベルで測定する。	
3. 開閉装置	(7)開閉装置寸法による。			



(2) 四方水密ローラゲート

工種	分類	項目	管理基準値 (mm)	測定基準
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (2) 四方水密ローラゲート(製作)	1. 扉体	原則として水密ゴム取付面を上にして水平位置に仮組み計測する。下側に計測に必要な空間を確保する。		
	A	扉体の全幅 (a <sub>L</sub> , a <sub>R</sub> )	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	扉体の全高 (b)	± 10	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	主桁の高さ (c <sub>1</sub> )	H<0.5 ±2 0.5≦H<1.0 ±3 1.0≦H ±4	桁1本につき2箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	端桁の高さ (c <sub>2</sub> )		左右各2箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	水密ゴム受座面から主ローラ踏面までの距離 (c <sub>3</sub> )	± 2	左右各2箇所をレベルと金属製直尺等で測定する。
	A	基準点対角長の差 (d)	10	鋼製巻尺で測定する。 (d =  d <sub>1</sub> - d <sub>2</sub>  )
	A	主ローラの支間 (e <sub>1L</sub> , e <sub>1R</sub> )	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	主ローラ中心間距離 (e <sub>2</sub> )	± 5	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	主ローラから扉体下端までの距離 (e <sub>3</sub> )	± 5	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	主ローラ踏面の偏差 (f)	1	左右各1箇所をレベル、金属製直尺等で測定する。
	B	主ローラ踏面からサイドローラまでの距離 (g)	± 5	上下左右各1箇所をレベル、金属製直尺等で測定する。
	B	水密幅 (h <sub>L</sub> , h <sub>R</sub> )	± 5	(P形ゴム) ゴム受座中心間距離を高さ2mごとに鋼製巻尺で測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。)
	B	吊金物(シーブ)中心又はラック吊心間距離 (i <sub>L</sub> , i <sub>R</sub> )	± 5	1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	主桁間隔 (j)	± 5	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	B	サイドローラ踏面間距離 (k <sub>L</sub> , k <sub>R</sub> )	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	B	吊金物(シーブ)中心又はラック吊心とスキンプレート間の距離 (l)	± 3	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	B	側部水密高さ (m)	± 5	ゴム受座中心間距離を左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	底部の曲がり (n)	± 3	レベル、金属製直尺等測定する。

測定箇所標準図	摘要



工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (2) 四方水密ローラゲート(製作)	1. 扉体	扉体の平面度 (o)	小形 3	dの対角基準点4点とその交点の計5点をレベルで測定する。 小形：扉体面積1.0㎡未満 中形：扉体面積1.0㎡以上5.0㎡未満 大形：扉体面積5.0㎡以上
	Δ		中形 5	
			大形 7	

- 注) 1. 小形のローラゲートにおいて形鋼を使用する場合は、主桁、端桁の高さ測定は桁1本につき1箇所でよい。  
2. 形鋼の幅、高さ、板厚の許容差は、その材料の規格による。

測 定 個 所 標 準 図	摘 要

工種	分類	項目	管理基準値 (mm)	測定基準	
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (2) 四方水密ローラゲート(製作)	2. 戸当り	原則として主ローラ踏面を上にして水平位置に仮組み計測する。			
	A	純径間 ( $a_L, a_R$ )	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	A	主ローラ踏面板中心間距離 ( $b_L, b_R$ )	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	B	サイドローラ踏面板間距離 ( $c_L, c_R$ )	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	B	主ローラ踏面とフロントローラ踏面間距離 (d)	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	B	側部戸当りと底部戸当りの関係位置 (e)	± 3	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	B	戸当り高さ (f)	± 10	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	A	呑口高さ(g)	± 5	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	A	主ローラ踏面板と水密面との距離(h)	± 2	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	A	主ローラ踏面板の厚さ(i)	+5, -0 JISによる	機械加工を行う場合	上下各1箇所をノギスで測定する。
				機械加工を行わない場合	
	A	主ローラレール桁高さ(j)	$B, H < 0.5$ ±2 $0.5 \leq B, H < 1.0$ ±3 $1.0 \leq B, H$ ±4	上下中央各1箇所を金属製直尺で測定する。	B: フランジ幅(m) H: 腹板高(m)
	A	基準点間の対角長の差(k)	10	鋼製巻尺で測定する。 ( $k =  k_1 - k_2 $ )	
	A	底部戸当り表面の平面度 (l)	1/m	長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで測定する。	
	A	底部戸当り表面の真直度 (m)	3	水平基準線からの変位を金属製直尺で測定する。	
	A	主ローラ踏面板の真直度 (n)	2 (3)	ピアノ線、レベル、金属製直尺等で2mごとに測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。) ( )内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。	
	A	主ローラ踏面板の平面度 (o)	1 (2)/m	長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで測定する。( )内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。	
A	水密面の真直度 (p)	2	ピアノ線、レベル、金属製直尺等で2mごとに測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。)		
A	水密面の平面度 (q)	1/m	長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで測定する。		

測定箇所標準図	摘要

工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準	
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (2) 四方水密ローラゲート(製作)	2. 戸当り	B	サイドローラ 踏面の真直度 (r)	6	ピアノ線、レベル、金属製直尺等で2mごとに測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。)
		B	サイドローラ 踏面の平面度 (s)	2(3)/m	長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで測定する。 ( )内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。
	3. 開閉装置	(7)開閉装置寸法による。			

- 注) 1. 小形のローラゲートにおいて形鋼を使用する場合は、主桁、端桁の高さ測定は桁1本につき1箇所でよい。  
2. 形鋼の幅、高さ、板厚の許容差は、その材料の規格による。

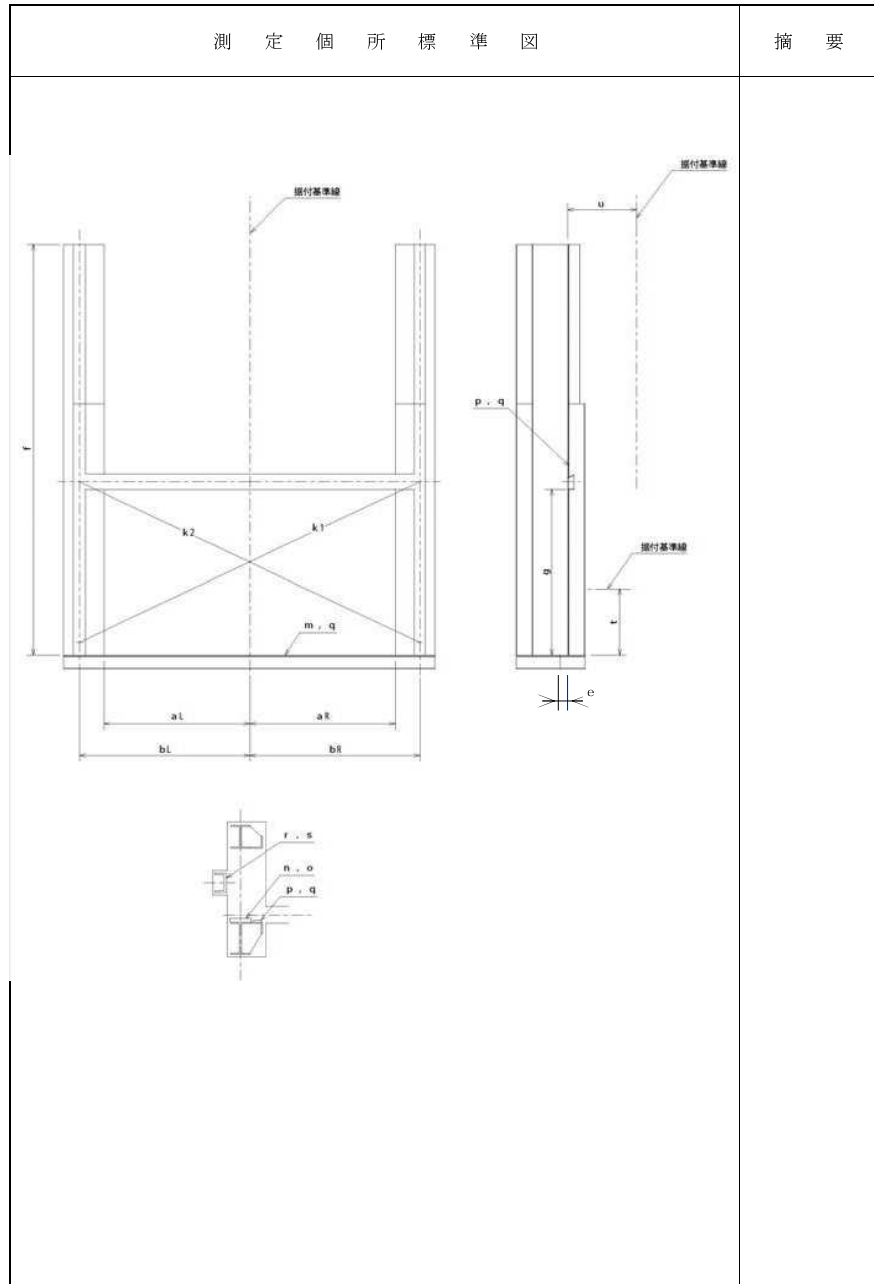
測 定 個 所 標 準 図	摘 要

工種	分類	項目	管理基準値 (mm)	測定基準	
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (2) 四方水密ローラゲート(据付)	1. 扉体	B	扉体の全幅 ( $a_L, a_R$ )	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		B	扉体の全高 ( $b$ )	± 10	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		A	水密ゴム受座 面から主ローラ 踏面までの 距離 ( $c$ )	± 2	左右各2箇所をレベルと金属製直尺等で測定する。
		A	基準点对角長 の差 ( $d$ )	10	鋼製巻尺で測定する。 ( $d =  d_1 - d_2 $ )
		A	主ローラの支 間 ( $e_L, e_R$ )	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		A	主ローラ踏面 の偏差 ( $f$ )	1	左右各1箇所をレベル、金属製直尺等で測定する。
		B	水密幅 ( $h_L, h_R$ )	± 5	ゴム受座中心間距離を長さ2mごとに鋼製巻尺 で測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測 定する。)
		B	側部水密高さ ( $m$ )	± 5	ゴム受座中心間距離を左右各1箇所を鋼製巻尺 で測定する。
		A	扉体の平面度 ( $o$ )	小形 3 中形 5 大形 7	$d$ の対角基準点4点とその交点の計5点をレベル で測定する。 小形：扉体面積10㎡未満 中形：扉体面積10㎡以上50㎡未満 大形：扉体面積50㎡以上
		A	扉体の傾き ( $p$ )	± 5	全閉前の左右岸・中央を直定規で測定する。 (水流直角方向)

注) 工場から現場へ分割なしで搬入され現場接合がない場合は、現場での寸法検査は必要ない(扉体の傾きを除く)。

測定箇所標準図	摘要

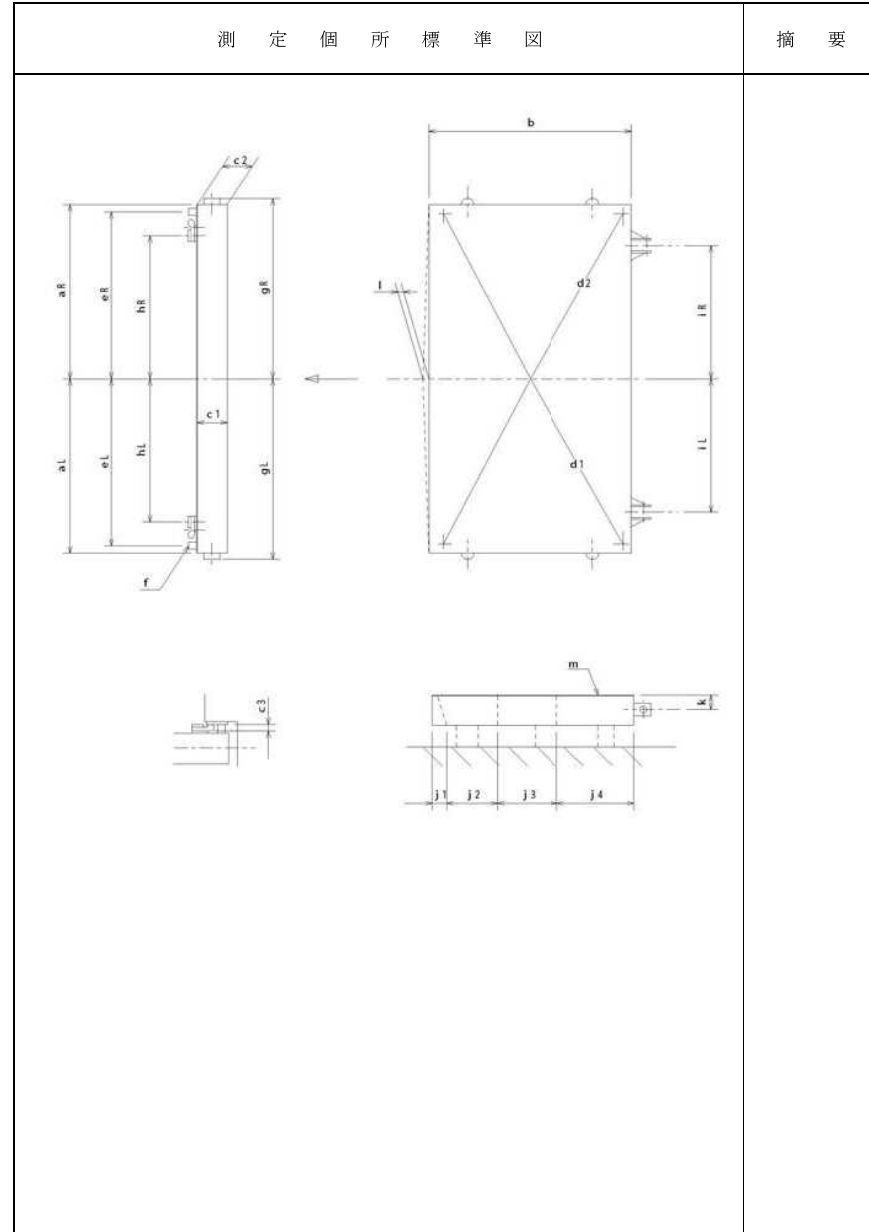
工種	分類	項目	管理基準値 (mm)	測定基準
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (2) 四方水密ローラゲート(据付)	2. 戸当り	A	純径間 ( $a_L, a_R$ )	$\pm 5$ 上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		A	主ローラ踏面板中心間距離 ( $b_L, b_R$ )	$\pm 5$ 上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		B	側部戸当りと底部戸当りとの関係位置(e)	$\pm 3$ 左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		A	呑口高さ(g)	$\pm 5$ 左右岸及び中央部を鋼製巻尺で測定する。
		A	基準点対角線長の差(k)	10 $(k =  k_1 - k_2 )$ 鋼製巻尺で測定する。
		A	水密面の水平度(m)	2 水平基準線からの変位を下げ振り、金属製直尺等で2mごとに測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。)
		A	主ローラ踏面板表面の鉛直度(n)	2(4) 鉛直基準線からの変位を下げ振り、金属製直尺で2mごとに測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。) ( )内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。
		A	主ローラ踏面板表面の平面度(o)	1(2)/m 長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで測定する。 ( )内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。
		A	水密面の鉛直度(p)	2 鉛直基準線からの変位を下げ振り、金属製直尺で2mごとに測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。)
		A	水密面の平面度(q)	1/m 長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで測定する。
		B	サイドローラ踏面の鉛直度(r)	6 鉛直基準線からの変位を下げ振り、金属製直尺で2mごとに測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。)
		B	サイドローラ踏面の平面度(s)	2(3)/m 長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで測定する。 ( )内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。
		B	底部戸当りの標高(t)	$\pm 5$ 中央部をレベルで測定する。
		B	据付基準線から主ローラ踏面までの距離(u)	$\pm 5$ 左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	3. 開閉装置	(7) 開閉装置寸法による。		



(3) 三方水密スライドゲート

工 種	分 類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (3) 三方水密スライドゲート(製作)	1. 扉体	原則として水密ゴム取付面を上にして水平位置に仮組み計測する。下側に計測に必要な空間を確保する。		
	A	扉体の全幅 (a <sub>1</sub> , a <sub>2</sub> )	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	扉体の全高 (b)	± 10	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	主桁の高さ (c <sub>1</sub> )	H<0.5 ±2 0.5≦H<1.0 ±3	桁1本につき2箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	端桁の高さ (c <sub>2</sub> )	1.0≦H ±4	左右各2箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	水密ゴム受座面から支圧板踏面までの距離 (c <sub>3</sub> )	± 2	左右各2箇所をレベルと金属製直尺等で測定する。
	A	基準点対角長の差 (d)	10	鋼製巻尺で測定する。 (d =  d <sub>1</sub> - d <sub>2</sub>  )
	A	支圧板中心間距離 (e <sub>1</sub> , e <sub>2</sub> )	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	支圧板踏面の偏差 (f)	1	左右各1箇所をレベル、金属製直尺等で測定する。
	B	サイドシユエー 当り面間隔 (g <sub>1</sub> , g <sub>2</sub> )	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	B	水密幅 (h <sub>1</sub> , h <sub>2</sub> )	± 5	ゴム受座中心間距離を高さ2mごとに測定する。 (2m以下の場合は上下各1箇所測定する。)
	B	吊金物中心間 距離 (i <sub>1</sub> , i <sub>2</sub> )	± 5	1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	主桁間隔 (j)	± 5	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	B	吊金物中心と スキンプレー ト間の距離 (k)	± 3	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	底部の曲り (l)	± 3	レベル、鋼製巻尺等で測定する。
A	扉体の平面度 (m)	小形 3 中形 5 大形 7	dの対角基準点4点とその交点の計5点をレベルで測定する。 小形：扉体面積10㎡未満 中形：扉体面積10㎡以上50㎡未満 大形：扉体面積50㎡以上	

注) 1. 小形のスライドゲートにおいて形鋼を使用する場合は、主桁、端桁の高さ測定は桁1本につき1箇所でのよい。  
2. 形鋼の幅、高さ、板厚の許容差は、その材料の規格による。



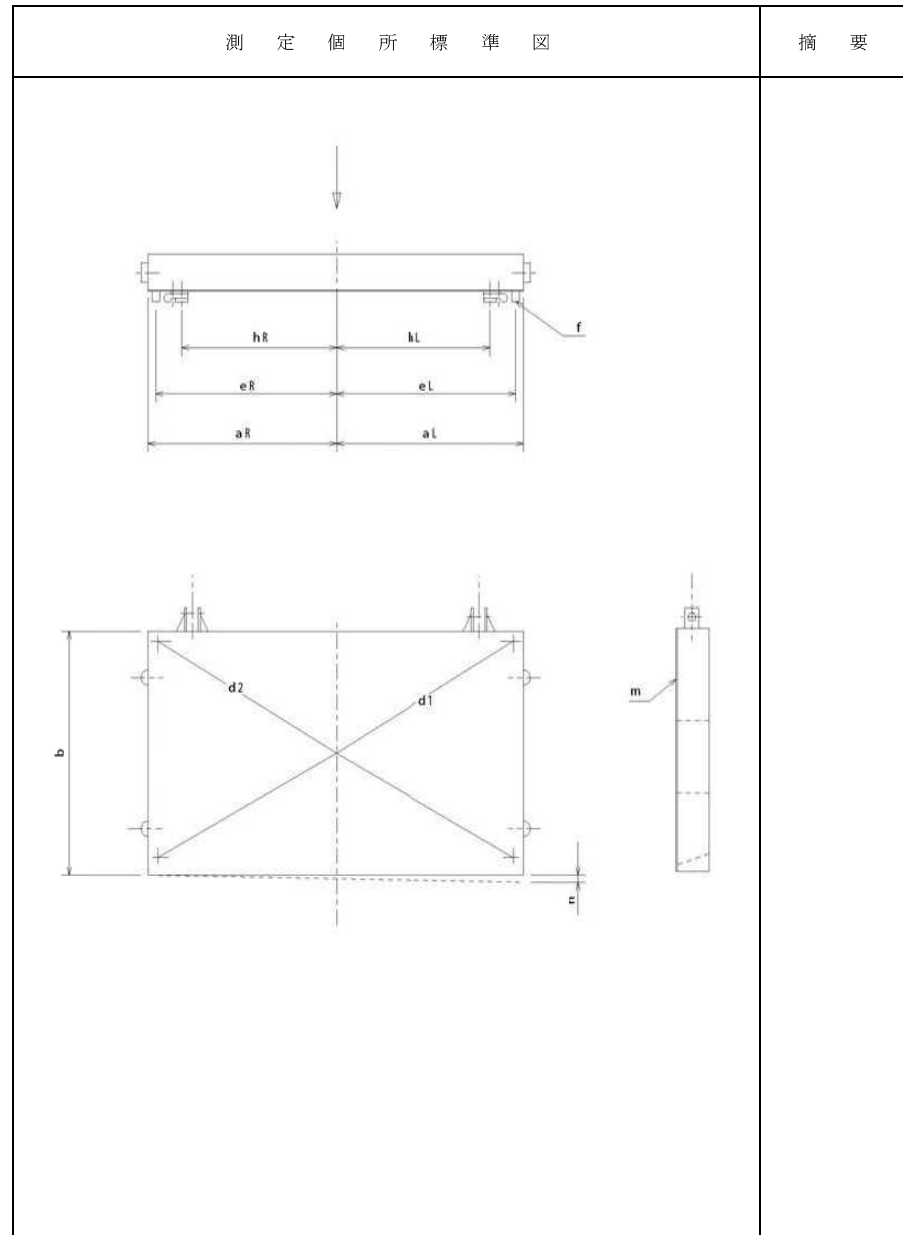
工種	分類	項目	管理基準値 (mm)	測定基準		
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (3) 三方水密スライドゲート (製作)	2. 戸当り	原則として支圧板踏面を上にして水平位置に仮組み計測する。				
		A	純径間 (a <sub>L</sub> , a <sub>R</sub> )	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
		A	支圧板踏面板中心間距離 (b <sub>L</sub> , b <sub>R</sub> )	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
		B	サイドシュー踏面間距離 (c <sub>L</sub> , c <sub>R</sub> )	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
		B	戸溝幅 (d)	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
		B	側部戸当りと底部戸当りとの関係位置 (e)	± 3	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
		B	戸当り高さ (f)	± 10	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
		A	戸当りレベル桁高さ (g)	B, H < 0.5 ±2 0.5 ≤ B, H < 1.0 ±3 1.0 ≤ B, H ±4	上下中央各1箇所を金属製直尺で測定する。	B: フラジ幅 (m) H: 腹板高 (m)
		A	基準点間の対角長の差 (h)	10	鋼製巻尺で測定する。 (h =  h <sub>1</sub> - h <sub>2</sub>  )	
		A	底部戸当り表面の平面度 (i)	1/m	長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで測定する。	
		A	底部戸当り表面の真直度 (j)	3	水平基準線からの変位を金属製直尺で測定する。	
		A	支圧板踏面板の真直度 (k)	2 (3)	ピアノ線、レベル、金属製直尺等で2mごとに測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。) ( )内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。	
		A	支圧板踏面板の平面度 (l)	1 (2)/m	長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで測定する。 ( )内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。	
		A	側部水密面の真直度 (m)	3	ピアノ線、レベル、金属製直尺等で2mごとに測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。)	
		A	側部水密面の平面度 (n)	2/m	長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで測定する。	
		B	サイドシュー踏面の真直度 (o)	6	ピアノ線、レベル、金属製直尺等で2mごとに測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。)	
	B	サイドシュー踏面の平面度 (p)	2 (3)/m	長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで測定する。 ( )内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。		
	3. 開閉装置	(7) 開閉装置寸法による。				

- 注) 1. 小形のスライドゲートにおいて支圧板踏面板と水密板が一体形(溝形鋼使用)では、水密面の真直度、平面度の測定は省略してもよい。  
2. 小形のスライドゲートにおいて形鋼を使用する場合は、桁の高さ測定は桁1本につき1箇所でのよい。  
3. 形鋼の幅、高さ、板厚の許容差は、その材料の規格による。

測定箇所標準図	摘要

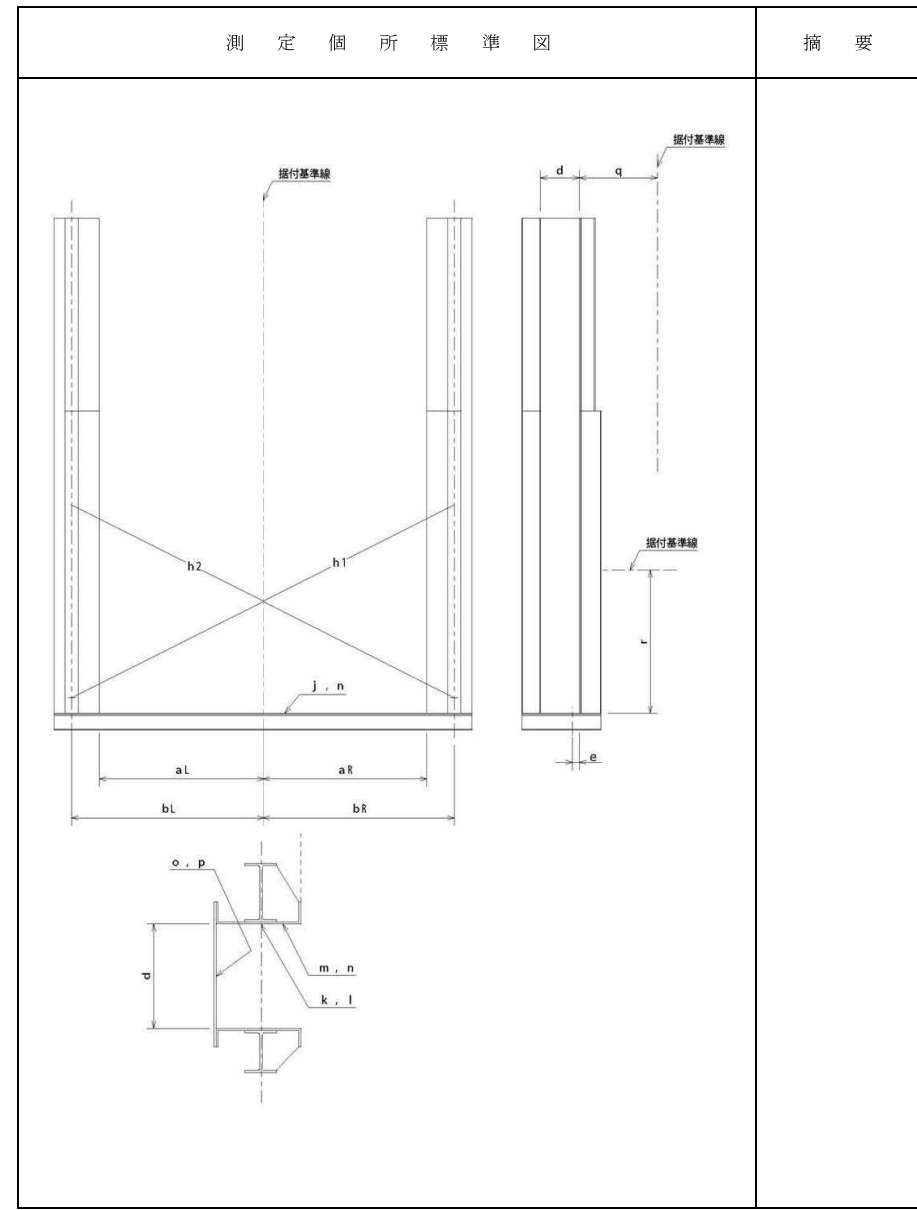
工種	分類	項目	管理基準値 (mm)	測定基準	
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (3) 三方水密スライドゲート(据付)	1. 扉体	B	扉体の全幅 ( $a_L, a_R$ )	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		B	扉体の全高 ( $b$ )	± 10	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		A	基準点間の対角長の差( $d$ )	10	鋼製巻尺で測定する。 ( $d =  d_L - d_R $ )
		A	支圧板中心間距離( $e_L, e_R$ )	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		A	支圧板踏面の偏差( $f$ )	1	左右各1箇所をレベル、金属製直尺等で測定する。
		B	水密幅 ( $h_L, h_R$ )	± 5	ゴム受座中心間距離を高さ2mごとに測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。)
		A	扉体の平面度 ( $m$ )	小形 3 中形 5 大形 7	$d$ の対角基準点4点とその交点の計5点をレベルで測定する。 小形：扉体面積10㎡未満 中形：扉体面積10㎡以上50㎡未満 大形：扉体面積50㎡以上
		A	扉体の傾き ( $n$ )	± 5	全閉前の左右岸・中央を直定規で測定する。(水流直角方向)

注) 工場から現場へ分割なしで搬入され現場接合がない場合は、現場での寸法検査は必要ない(扉体の傾きを除く)。



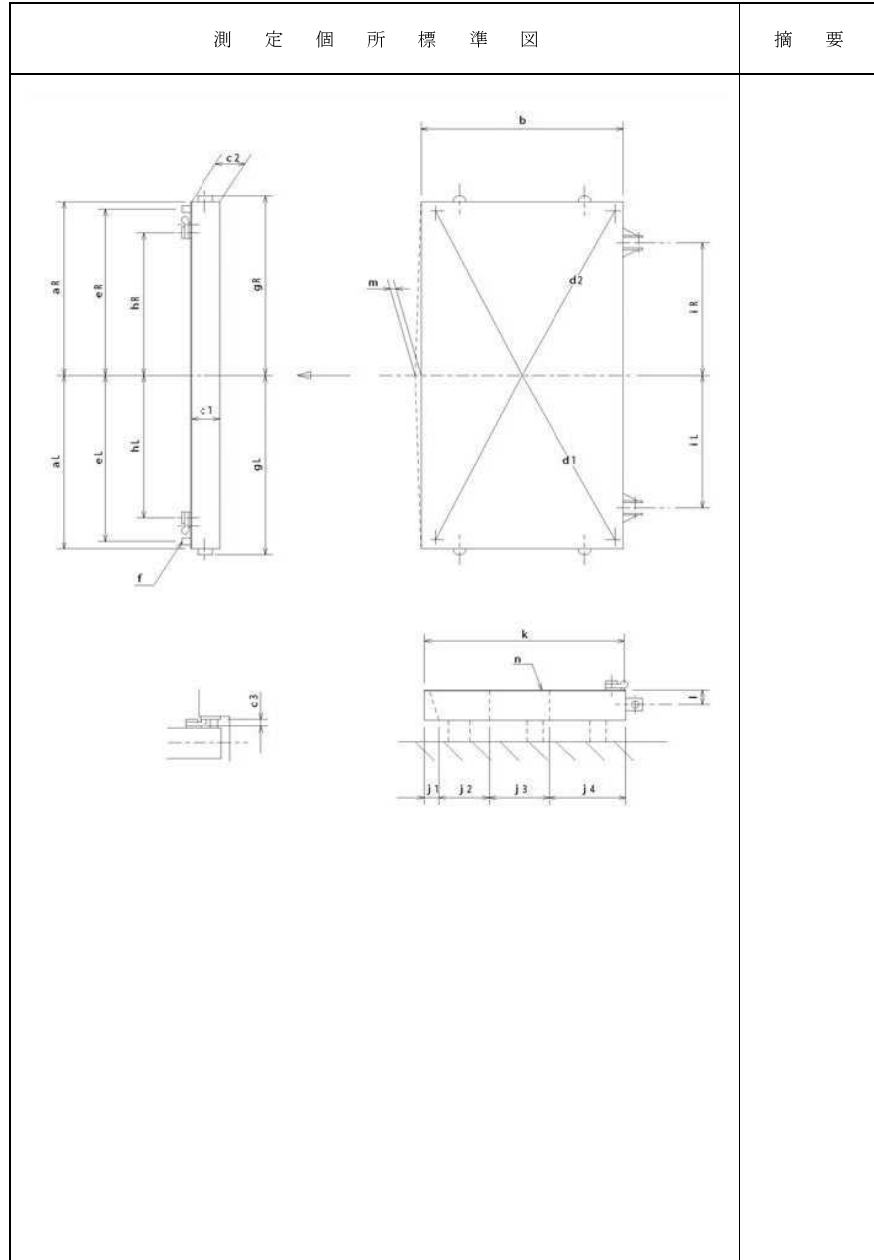


工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (3) 三方水密スライドゲート(据付)	2. 戸当り	A 純径間 ( $a_1, a_2$ )	± 5	上下各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
		A 支圧板踏面中心間距離 ( $b_1, b_2$ )	± 5	上下各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
		A 側部戸当りと底部戸当りとの関係位置 (e)	± 3	左右各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
		B 戸溝幅 (d)	± 5	上下各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
		A 基準点間の対角長の差 (h)	1 0	基準点間の距離を測定し、その差を算定する。 ( $h =  h_1 - h_2 $ )
		A 底部水密面の水平度 (j)	2	水平基準線からの変位をレベル、金属製直尺で 2m ごとに測定する。(2m 以下の場合は左右各 1 箇所測定する。)
		A 支圧板踏面板表面の鉛直度 (k)	2 (4)	鉛直基準線からの変位を下げ振り、金属製直尺で長さ 2m ごとに測定する。(2m 以下の場合は上下各 1 箇所測定する。) ( )内数値は継構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。
		A 支圧板踏面板表面の平面度 (l)	1 (2)/m	長さ 1m の直定規からの変位をすきまゲージで測定する。 ( )内数値は継構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。
		A 側部水密面の鉛直度 (m)	2	鉛直基準線からの変位を下げ振り、金属製直尺で 2m ごとに測定する。(2m 以下の場合は上下各 1 箇所測定する。)
		A 水密面の平面度 (n)	2/m	長さ 1m の直定規からの変位をすきまゲージで測定する。
		B サイシャ踏面の鉛直度 (o)	6	鉛直基準線からの変位を下げ振り、金属製直尺で 2m ごとに測定する。(2m 以下の場合は上下各 1 箇所測定する。)
		B サイシャ踏面の平面度 (p)	2 (3)/m	長さ 1m の直定規からの変位をすきまゲージで測定する。 ( )内数値は継構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。
		B 据付基準線から支圧板踏面板までの距離 (q)	± 5	左右各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
		B 底部戸当りの標高 (r)	± 5	中央部をレベルで測定する。
	3. 開閉装置	(7) 開閉装置寸法による。		



(4) 四方水密スライドゲート

工種	分類	項目	管理基準値 (mm)	測定基準
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (4) 四方水密スライドゲート (製作)	1. 扉体	原則として水密ゴム取付面を上にして水平位置に仮組み計測する。下側に計測に必要な空間を確保する。		
	A	扉体の全幅 (a <sub>L</sub> , a <sub>R</sub> )	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	扉体の全高 (b)	± 10	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	主桁の高さ (c <sub>1</sub> )	H<0.5 ±2 0.5≤H<1.0 ±3 1.0≤H ±4	桁1本につき2箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	端桁の高さ (c <sub>2</sub> )		左右各2箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	水密ゴム受座面から支圧板踏面までの距離 (c <sub>3</sub> )	± 2	左右各2箇所をレベルと金属製直尺等で測定する。
	A	基準点対角長の差 (d)	10	鋼製巻尺で測定する。 (d =  d <sub>1</sub> - d <sub>2</sub>  )
	A	支圧板中心間距離 (e <sub>L</sub> , e <sub>R</sub> )	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	支圧板踏面の偏差 (f)	1	左右各1箇所をレベル、金属製直尺等で測定する。
	B	サイドシュー当たり面間隔 (g <sub>L</sub> , g <sub>R</sub> )	± 5	上下左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	B	水密幅 (h <sub>L</sub> , h <sub>R</sub> )	± 5	ゴム受座中心間距離を高さ2mごとに測定する。 (2m以下の場合は上下各1箇所測定する。)
	B	吊金物中心間距離 (i <sub>L</sub> , i <sub>R</sub> )	± 5	1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	主桁間隔 (j)	± 5	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	B	水密高さ (k)	± 5	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	B	吊金物中心とスキッププレート間の距離 (l)	± 3	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	底部の曲がり (m)	± 3	レベル、金属製直尺等測定する。
	A	扉体の平面度 (n)	小形 3 中形 5 大形 7	dの対角基準点4点とその交点の計5点をレベルで測定する。 小形：扉体面積10㎡未満 中形：扉体面積10㎡以上50㎡未満 大形：扉体面積50㎡以上



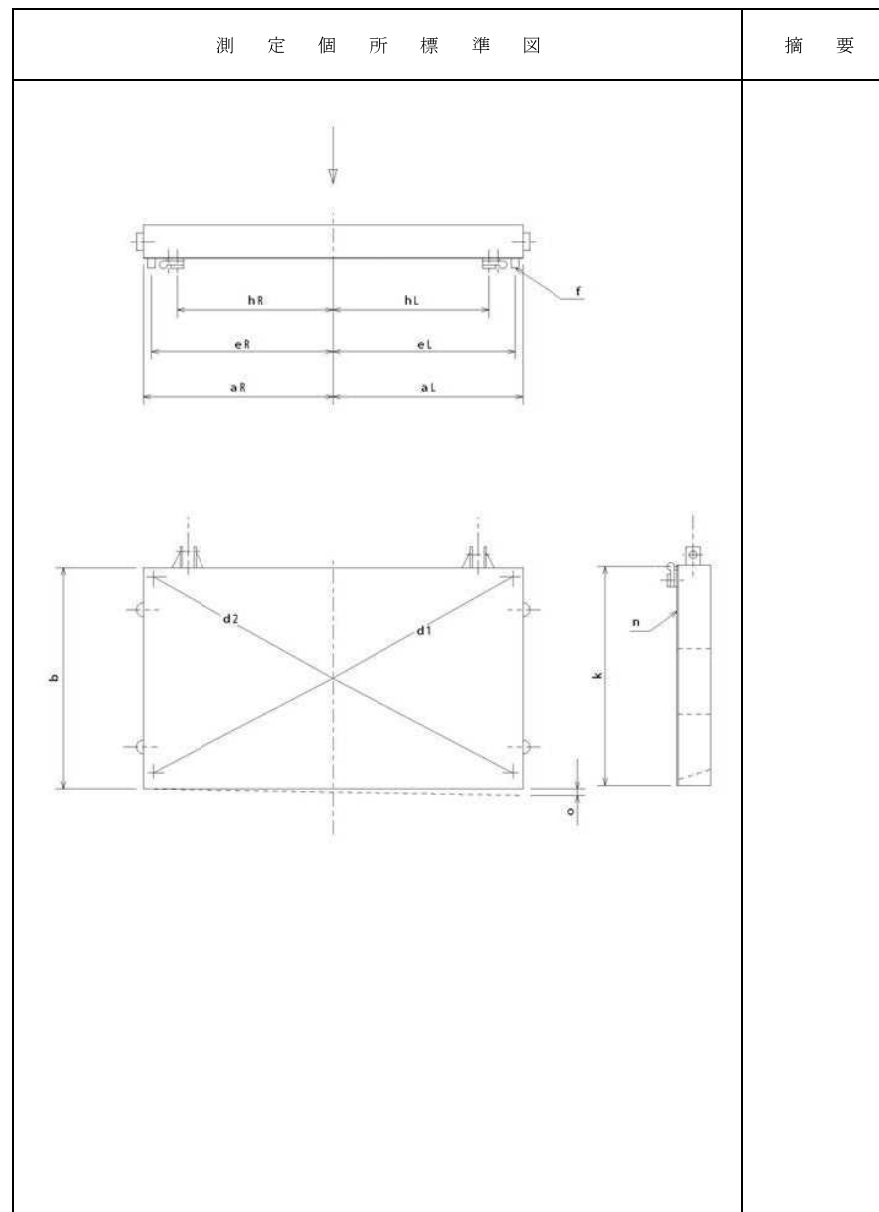
注) 1. 小形のスライドゲートにおいて形鋼を使用する場合は、主桁、端桁の高さ測定は桁1本につき1箇所であり、  
2. 形鋼の幅、高さ、板厚の許容差は、その材料の規格による。

工種	分類	項目	管理基準値 (mm)	測定基準	
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (4) 四方水密スライドゲート(製作)	2. 戸当り	原則として支圧板踏面を上にして水平位置に仮組み計測する。			
	A	純径間 (a <sub>L</sub> , a <sub>R</sub> )	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	A	支圧板踏面板 中心間距離 (b <sub>L</sub> , b <sub>R</sub> )	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	B	サイドシュー 踏面間距離 (c <sub>L</sub> , c <sub>R</sub> )	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	B	戸溝幅 (d)	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	B	側部戸当りと 底部戸当りと の関係位置 (e)	± 3	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	B	戸当り高さ (f)	± 10	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	A	呑口高さ (g)	± 5	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	A	戸当り桁高 さ (h)	B, H < 0.5 ± 2 0.5 ≤ B, H < 1.0 ± 3 1.0 ≤ B, H ± 4	上下中央各1箇所を金属製直 尺で測定する。 B : フランジ幅(m) H : 腹板高(m)	
	A	基準点間の対 角長の差 (i)	10	鋼製巻尺で測定する。 (i =  i <sub>1</sub> - i <sub>2</sub>  )	
	A	底部戸当り表 面の平面度 (j)	1/m	長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで 測定する。	
	A	底部戸当り表 面の真直度 (k)	3	水平基準線からの変位を金属製直尺で測定する。	
	A	支圧板踏面板 の真直度 (l)	2 (3)	ピアノ線、レベル、金属製直尺等で2mごとに測 定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定す る。)( )内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や 水密の必要がない部分)の許容差を示す。	
	A	支圧板踏面板 の平面度 (m)	1 (2)/m	長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで 測定する。( )内数値は軽構造部(水圧荷重の 影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。	
	A	側部水密面の 真直度 (n)	3	ピアノ線、レベル、金属製直尺等で2mごとに測 定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定す る。)	
	A	側部水密面の 平面度 (o)	2/m	長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで 測定する。	
	B	サイドシュー 踏面の真直度 (p)	6	ピアノ線、レベル、金属製直尺等で2mごとに測 定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定す る。)	
	B	サイドシュー 踏面の平面度 (q)	2 (3)/m	長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで 測定する。( )内数値は軽構造部(水圧荷重の 影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。	
	3. 開閉装置	(7) 開閉装置寸法による。			

- 注) 1. 小形のスライドゲートにおいて支圧板踏面板と水密板が一体形(溝形鋼使用)では、水密面の真直度、平面度の測定は省略してもよい。  
2. 小形のスライドゲートにおいて形鋼を使用する場合は、桁の高さ測定は桁1本につき1箇所でのよい。  
3. 形鋼の幅、高さ、板厚の許容差は、その材料の規格による。

測定箇所標準図	摘要

工種	分類	項目	管理基準値 (mm)	測定基準
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (4) 四方水密スライドゲート(据付)	1. 扉体	B 扉体の全幅 ( $a_L, a_R$ )	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		B 扉体の全高 ( $b$ )	± 10	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		A 基準点対角長の差 ( $d$ )	10	鋼製巻尺で測定する。 ( $d =  d_1 - d_2 $ )
		A 支圧板中心間距離 ( $e_L, e_R$ )	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		A 支圧板踏面の偏差 ( $f$ )	1	左右各1箇所をレベル、金属製直尺等で測定する。
		B 水密幅 ( $h_L, h_R$ )	± 5	ゴム受座中心間距離を長さ2mごとに測定する。 (2m以下の場合は上下各1箇所測定する。)
		B 水密高さ ( $k$ )	± 5	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		A 扉体の平面度 ( $n$ )	小形 3 中形 5 大形 7	dの対角基準点4点とその交点の計5点をレベルで測定する。 小形：扉体面積10㎡未満 中形：扉体面積10㎡以上50㎡未満 大形：扉体面積50㎡以上
		Λ 扉体の傾き ( $o$ )	± 5	全閉前の左右岸・中央を直定規で測定する。 (水流直角方向)



注) 工場から現場へ分割なしで搬入され現場接合がない場合は、現場での寸法検査は必要ない(扉体の傾きを除く)。